



UNAIDS プレスリリース

エイズは終わっていないし、脆弱な成果も危機に瀕している。国連事務総長報告の警告を受け、世界の連帯を改めて呼びかける

2026年6月4日 ニューヨーク/ジュネーブ HIV と AIDS に関する国連総会ハイレベル会合（6月22日～23日、ニューヨーク）に先立ち、国連事務総長が HIV/AIDS に関する報告

https://www.unaids.org/en/resources/documents/2026/20260604_UNSG_report_AIDS

を発表したことを UNAIDS は歓迎します。アントニオ・グテーレス事務総長はこの報告で明確なメッセージを発信しています。世界の HIV 対策の成果は目覚ましいものの、各国政府がいま大急ぎでエイズ対策の再強化に取り組まなければ、その成果も失われ危機に追い込まれるという警告のメッセージです。

「世界の HIV 対策は重大な岐路に立っています。成果は確実にあがり、測定も可能ですが、その成果も複合的な危機によりおぼつかない状態です」。事務総長はこう述べ、国際援助資金の減少や債務負担増、人道的危機と人権状況の悪化を危機として挙げています。

報告によると、2024年には世界の HIV 陽性者 4080 万人のうち、これまでで最も多い 3160 万人が治療を受けています。またエイズ関連の死者数は 2010 年当時と比べ 54%減少し、1990 年代初頭以降で最も少ない水準です。

その成果を先導する役割を果たしているのは、HIV 陽性者が最も多く住む東部・南部アフリカ地域で、域内 7 カ国が、検査・治療の世界目標である 95-95-95 ターゲットを 2024 年に達成しました。

「こうした成果は、政治のリーダーシップとコミュニティの活動、そして継続的な投資が一体になれば、エイズ終結に向けて素晴らしい成果を達成できることを証明しています」と、UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長は述べています。

しかし、2021 年の HIV とエイズに関する政治宣言で設定された 2025 年ターゲットには遠く及ばないことも事務総長報告は強調しています。約 920 万人が依然、HIV 治療を受けることができず、2024 年にエイズ関連の疾患で死亡した人は約 63 万人と 2025 年ターゲット（25 万人）の 2 倍を

大きく超えています。また、2024年の新規 HIV 感染者数は 130 万人で、2025 年ターゲット（37 万人）のほぼ 3.5 倍でした。

成果には大きなばらつきがあることを事務総長報告は指摘しています。新規 HIV 感染者数は中東・北アフリカで急増し（2010 年当時との比較で 94%増）、ラテンアメリカ、東欧・中央アジアでも増えています。

HIV サービスの利用を妨げる構造的な不平等への対処と資金不足の解消、持続可能なかたちで HIV サービスの拡大を加速することの必要性を事務総長報告は指摘しています。サハラ以南のアフリカでは思春期の少女や若い女性の HIV 感染が、同年代の男性の 3~4 倍に達しています。

サハラ以南アフリカ以外では、新規感染者の 74%はキーポピュレーションとそのパートナーで占められています。事務総長は報告の中で、保健分野への援助資金が最大で 40%減少するとの見通しを示し、とりわけ HIV 予防とコミュニティ主導のサービスが大きな影響を受けていることを警告しています。西部・中部アフリカ地域では、治療のための資金の 90%は外部ドナーからの援助に支えられており、サハラ以南アフリカ全体でも予防プログラムの 80%は外部資金に頼る状態です。

「資金不足を大急ぎで解消しなければ、何百万もの人の命が危険にさらされるのです」とビヤマ事務局長は語る。「財政面の打撃や人権に反する動き、そして政治的な後退のために、数十年の成果が覆されるようなことを許してはなりません」

事務総長報告は、進歩の加速に向けた動きをいくつか示しています。注射剤を含む長期作用型 HIV 予防薬は入手可能になりつつあり、ジェネリック医薬品は年間で一人当たり 40 米ドル程度になる見通しですが、なかなか普及していきません。

検査の普及と治療の継続、ウイルス量の抑制に向けた対策には、コミュニティ主導の組織の活動が効果的なことはすでに実証されています。こうした組織をまもり、資金を援助して、各国が主体となった計画に組み込む必要があります。すでに 30 カ国以上が UNAIDS と共同で新たな国家持続可能性ロードマップを策定しており、各国が独自に国内の HIV 対策を進めていくために必要な主体性を支えています。

国連事務総長は、6 月の HIV とエイズに関するハイレベル会合で採択が予定されている政治宣言の大胆な 2030 年 HIV ターゲットを支持するよう加盟国に呼びかけています。一連のターゲットは、2025 年の約束に基づき、2030 年までに公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結と将来にわたるその状態の維持に向け、成果の持続を確保することを目指しているのです。

「2030 年までにエイズ終結に至る道は存在し、今も開かれています」とグテーレス事務総長は述べています。「しかし、それは私たちが共に行動した場合に限られるのです」

間もなく開かれる HIV とエイズに関するハイレベル会合を機に、すべての国連加盟国政府が、公

衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を 2030 年までに達成する決意を改めて表明することを UNAIDS は求めます。特に HIV 関連の国内予算を増やし、HIV の予防と治療、コミュニティ主導のサービスへの資金提供を確保・拡大すること、偏見を助長し HIV サービスの利用を妨げる懲罰的な法律や政策を撤廃すること、長期作用型の HIV 予防・治療を含む革新的な技術への公平なアクセスを確保することを強く求めます。

「エイズ終結は政治的課題です」とビャニマ事務局長氏はいう。「勇気と連帯、そして投資があれば、私たちはこの仕事を成し遂げられるのです」

国連事務総長報告は、2026 年 6 月 22 日～23 日の HIV とエイズに関するハイレベル会合に向けて、加盟国が HIV とエイズに関する新たな政治宣言をめぐる交渉をすすめるための重要な参考資料です。この報告書およびハイレベル会合に向けた市民社会声明を含む詳細情報は、UNAIDS 公式サイトの特設ページ「HIV とエイズに関する国連総会ハイレベル会合」

<https://www.unaids.org/en/2026-high-level-meeting-aids>

でご覧いただけます。

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団